

「あなたも読めるようになる」 古文書講座

令和二年度から、五回にわたって「オンラインでチャレンジ！ 夏休み家族古文書講座」というコーナーを設けてきました。おもに小倉百人一首を素材として、変体仮名を読み解くことに主眼を置いてきたのですが、本年度から趣向を変えます。古文書を読むことが初めてという方を対象にして、古文書読解の手ほどきをしていきたいと思えます。次の三年計画で進めていく予定です。

第一年次（令和七年度） 返読文字に注目して、漢語・漢文を訓読してみましよう。

第二年次（令和八年度） 返読文字が含まれている短い古文書をテキストとして、返読文字の部分に着目し、その訓読に慣れていきましよう。

第三年次（令和九年度）
実際の古文書をテキストとしながら、江戸時代の年貢高や貨幣の単位などに注目して、読み解いていきましよう。

これまでに毎年古文書講座を実施してきましたが、受講者の方から「古文書に関心があっても、いざ手に取ってみると、くずし字になっていて読みづらい」「漢文中心で意味が分かりにくい」「候文になっているため馴染みにくい」というご意見を伺ってきました。

こうした抵抗感を少しでも取り除いて、古文書に親しまれる方が多くなることを願い、このコーナーを設けました。お気軽にご利用ください。

いろいろある返読文字

古文書の多くは、漢文体の文章になっています。時折「二付（につき）」とか「然れ共（しかれども）」のように仮名がまじることもありますが、ほとんどは漢文が連続します。これだけでも抵抗を感じるかもしれませんが、ここに返読文字が加わると、訓読が厄介なものになります。

返読文字とは、下から上へ返って読む文字のことを言います。例えば「可能」は返し読みで「あたうべし」、「不可能」は返り点をもう一つ付けて「あたうべからず」となります。現在はそれぞれ「かう」「ふかのう」と読んで、わざわざ返り点を打って読むことはありません。熟語として違和感なく使っています。ほかに、「無意味」とか「奉仕」など、返読文字を用いた熟語が数えきれないほどあります。

古文書を訓読する時、下から上へ返って読むという一つの作業が入るため、難しく感じてしまいますが、これに慣れておくことが、古文書読解の近道になると考えます。

返読文字が含まれる言葉を例にならって訓読してみましよう。

不 「ず」 打消しの助動詞 活用語の未然形に付きます

例 不慮 おもんばからず

① **不採用** 「
ず」

意味 採用しない

② **不顧** 「
ず」

意味 顧みない

③ **不惑** 「
ず」

意味 物の考え方などに迷いが無い

④ **不易** 「
ず」

意味 いつまでも変わらない

⑤ **不安** 「
ず」

意味 心中穏やかでない

「不」の答え

① さいようせず ② かえりみず ③ まどわず ④ かわら
ず ⑤ やすからず
ほかに「不」が付く言葉として、不及（およばず）・不
承引（しょういんせず）・不断（ことわらず）などがあ
ります。

無 「なし」 形容詞 物や人が存在しない

例 無坳 よんどころなし

① **無申訳** 「
」 (終止形で)

意味 弁解の余地がない

② **無沙汰** 「
」 (終止形で)

意味 長い間訪問や音信をしていない

③ **無相違** 「
」 (終止形で)

意味 まちがいが無い

④ **無是非** 「
」 (終止形で)

意味 当否や善悪の判断にかかわらない

「無」の答え

①もうしわけなし ②さたなし ③そういなし ④ぜひなし

ほかに「無」が付く言葉として、無限(かぎりなし)・無恙(つつがなし)・無理(ことわりなし)などがあります。

有 「あり」 動詞 存在する・その場にいる

例 **有之** これあり

① **有異見** 「 (終止形で)

意味 他の人とは違った考えがある

② **有之由** 「

意味 くがあるとのこと

③ **有意義** 「 (終止形で)

意味 意味・価値がある

④ **有罪** 「 (終止形で)

意味 罪がある

「有」の答え

① いけんあり ② これあるよし ③ いぎあり ④ つみあり

ほかに「有」が付く言葉として、有限(ゆうげん・かぎりあり)・有数(ゆうすう・かずあり)・有縁(うえん・えんあり)・有望(ゆうぼう・のぞみあり)などがあります。

奉 「たてまつる」 補助動詞 謙讓の意 お・・・申しあげる

例 **奉願** ねがいたてまつる

① **奉仕** 「 (終止形で)

意味 神仏、主君、師などにお仕え申しあげる

② **奉納** 「 (終止形で)

意味 つつしんでお納め申しあげる

③ **奉存** 「 (終止形で)

意味 存じ申しあげる・お思い申し上げる

④ **奉仰** 「 (終止形で)

意味 仰せ申しあげる

「奉」の答え

①つかえたてまつる ②おさめたてまつる ③ぞんじたてまつる ④おおせたてまつる
ほかに「奉」が付く言葉として、奉賀（ほうが・がしたてまつる）・奉迎（ほうげい・むかえたてまつる）などがあります。

可 「べし」 助動詞 当然・義務・予定などの意味

例 **可及** およぶべし

① **可令** 「
」 (終止形で)

意味 くさせるべきである

② **可申付** 「
」 (終止形で)

意味 申し付けるべきである

③ **可得** 「
」 (終止形で)

意味 得るべきである

④ **可被下** 「
」 (終止形で)

意味 下さるべきである

「可」の答え

①せしむべし ②もうしつくべし ③うべし ④くださるべし

ほかに「可」が付く言葉として、可差出(さしだすべし)・可致(いたすべし)・可相渡(あいわたすべし)などがあります。

被 「る」「らる」 助動詞 自発・受身・可能・尊敬の意

例 **被申** もうさる

① **被申成** 「 (終止形で)

意味 お申しなさる

② **被仰付** 「 (終止形で)

意味 仰せ付けられる

③ **被免** 「 (終止形で)

意味 許される 許して義務や負担などを除く

④ **被仰出** 「 (終止形で)

意味 ご命令になる

「被」の答え

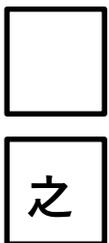
①もうしなさる ②おおせつけられる ③めんぜらる

④おおせいださる

ほかに「被」が付く言葉として、被召出(めしいださる)・被添(そえらる)・被遊(あそばさる)などがあります。

返読文字が含まれる古文書の原文を切り取ってみました。それぞれ何と書いてあるか、例にならって読んでみましょう。

例

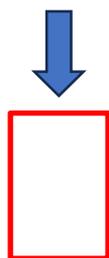
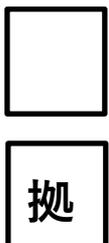


翻字

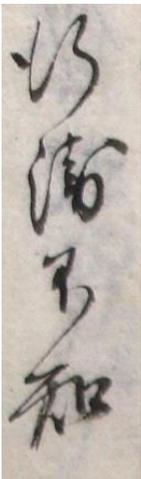


訓読

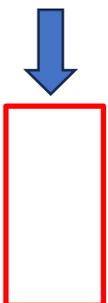
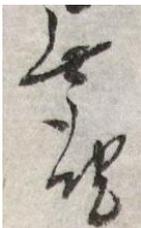
①



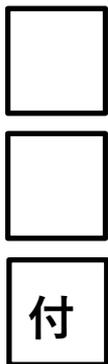
②



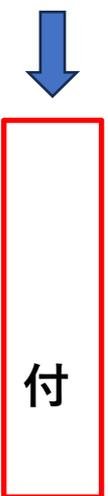
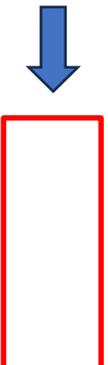
③



④



⑤



前頁の答え

翻字

訓読（終止形）

①

無拗

よんどころなし

②

行衛不知

ゆくえしらず

③

無御座

ござなし

④

被仰付

おおせつけらる

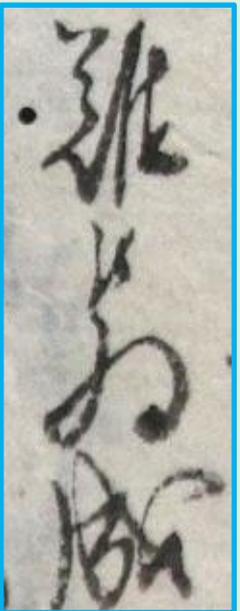
⑤

被仰渡

おおせわたさる

いかがだったでしょうか。『くずし字用例辞典』には用例が幾つか紹介されています。返読文字は、ほかにもたくさんありますから、興味のある方は、是非調べてみてください。

最後に、複数の返読文字が用いられている言葉を提示します。どのように読むと良いでしょうか。（ヒント 返読文字は難・被・為の三つです）



答え 「難被為成」「なさせられがたし」（終止形）